

「和僑が日本の停滞打破」

県内外の「縁」活用提言

和僑アジア大会

海外で起業した日本人経営者らでつくる和僑会(筒井修・本部長)の「和僑アジア大会2010 in OKINAWA」は最終日の26日、「琉球から日本を変える」今、再び大交易時代」をテーマに那覇市のザ・ナハテラスで本大会が開かれた。講演した香港貿易発展局首席代表の古田茂美氏は「地縁、血縁、業縁でつながる華僑が中国経済を支えたように、和僑が停滞する日本を支える」と訴え、タオファクトリー代表理事の平田大一氏は演出を手掛ける中高生の舞台の取り組みを例に「自分たちの地域に誇りを持つ人こそが真の国際人。故郷は沖縄に、視野は世界に」と語った。



アジアにおける沖縄の役割や文化産業の可能性についての講演に聞き入る参加者=26日、那覇市・ザ・ナハテラス

「大公益時代」説く

香港和僑会
武沢信行氏

和僑アジア大会では、会員企業などのビジネス事例を紹介するセミナーが3会場で開催され、6人が講師を務めた。「大交易時代の和僑流通」と題し、講演したのが香港和僑会顧問の武沢信行氏(香港和僑会顧問)は、インターネットのメールマガジンで企業関係者約3万2000人に毎日コラムを配信している。大企業に依存した経済が立ちゆかなくなる一方、日本やアジア域内で中小企業が存在感が高まり、海外進出を後押しする流れが生まれつつあると指摘。「和僑会が今後発展していくのは当然の流れだ」とした。

IT技術の革新でビジネスが大きく変化するなか、何を指すのかを、経営者自身の言葉で、明確に目標を立てることの重要性を挙げた。「ハングリー精神で成功哲学を語るのほもう古い。私欲ではない『公欲』をもとに、経営理念を実現する『大公益時代』に入った」と説いた。

南京中医药大学教授で中医学博士の楊さちこ氏は、中国の伝統医学「中医学」に基づいた美容法や健康法について講演。関西弁の軽快なトークで、食事など日々の心掛けで太りにくく、疲れにくい体づくりのポイントを解説した。「長く続けるためのモチベーションが大切。自分にあった健康・美容法を選んでほしい」と話した。

ほかに、琉球史研究家の上里隆史氏やカリスマバサガイドの崎原真弓氏、香港和僑会顧問の角田謙之氏、ハッピーライフアライアンス代表の小松信幸氏が講師を務めた。

利」が、地域の「誇り」に育つまでの活動を紹介。初の公演で大きな拍手を浴びた子どもたちの「感動体験」が、今も変わらず受け継がれている生き生きとした現場の様子を語った。

「県外から多くの観客が訪れることで、沖縄自身が地域の宝に気付いた」と強調。世界に沖縄のことを知ってもらおうとの大切さに触れ、「沖縄の若者が外に出たがらない傾向があることを危惧している。県外や国外に出て、自分たちの本当の宝物に気付くべきだ」と話した。

アジア大会には国内会員のほか、上海や北京、台湾、シンガポールなど各和僑会から約500人の起業家、経営者らが参加。事務局大会では国内外の和僑会を束ねる「和僑総会」の設立と、来年のアジア大会を上海で開くことを決定した。

優秀技能者 30人を表彰

県・県職能開発協

2010年度県優秀技能者等表彰式(主催・県・県職能開発協会)が26日、那覇地域職業訓練センターであり、30人に表彰状が手渡された。受賞者を代表して読谷山花



優秀技能者等表彰の受賞者ら=26日、那覇地域職業訓練センター

沖縄・釜山IT企業初提携

リユース販売網を相互活用



ソフトウェア開発のリユース(那覇市、齋藤孝春社長)と、ナドソフト(韓国・釜山、朴智奎CEO)が26日、那覇市の沖縄総合事務局で相互提携の覚書を交わした。リユースの齋藤社長と朴CEOは、

互業務補完のMOU(覚書)に調印した。特許申請中の電子辞典ソフト「超辞典」などのソフトウェアを開発するリユースとセキュリティソフトウェアの開発で実績のあるナドソフトが相互に業務を補完することで、両社の販売網を使った

商品販売が可能になる。釜山と県内の企業が業務補完するのは初めてという。齋藤社長は「アライアンスによりウィンウィンの関係でビジネス発展していきたい。アジアのグローバル化のきっかけになるのでは」と期待した。沖縄総合事務局が同日開いた「釜山・北九州・金沢・沖縄IT企業交流会」で調印式を行った。交流会では、韓国と北九州のIT企業の取り組みや県内IT産業の現状が報告された。

古田氏は、準政府機関の同発展局で日本市場での貿易促進活動の企画、立案を統括している。日本の1人当たりの賃金の伸び悩みや企業の設備投資の減少、高水準の法人課税



古田茂美氏



平田大一氏

負担などに触れ、世界市場で日本産業の地位が低迷していると指摘。日本企業が海外マーケットで競争力を高める必要性を挙げた。

アジアからのヒト、モノ、マネーが中国、とりわけ香港に流れている現状を解説し、背後にある華人社会のネットワークや華僑経済の大きさを指摘。「華人社会では皆で商売をやるのが基本。独資で事業を始めるなんてあり得ない」といい、和僑のネットワークを築く上で、華人社会の経済史を学ぶことが活動のヒントになると提言した。

演出家の平田大一氏は、11

12年度地域新成長戦略産業創出促進事業(アジアのIT拠点を)

釜山・北九州・金沢・沖縄IT企業交流会

共催:

株式会社リユース

MOU締結

26日(金)

沖縄総合事務局